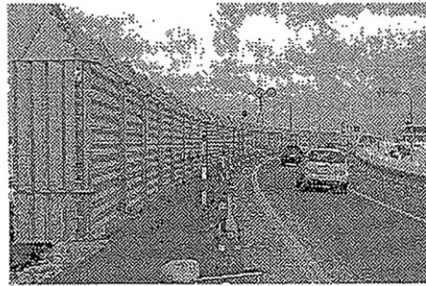


# 斜風対応型防雪柵を開発

## 北海道工業大学と共同研究

### 理研興業が生産・販売を開始

県内でも長年実績のある防雪柵メーカーの理研興業(本社・北海道小樽市柴尾耕三社長)は、これまで対策が困難とされてきた斜風に対しても高い効果を発揮する『斜風対応型防雪柵』(実用新案登録)を開発し、生産・販売を開始した。



この斜風対応型防雪柵は直立部と忍び返し部、整風版部の三つの部分で構成されており、直立部と整風版が遮蔽率一〇〇%の無孔板、忍び返し部には遮蔽率七〇%の有孔板を使用している。同防雪柵の最大の特徴である整風版は、幅約一mで高さは直立部と同じ。直立部に対し垂直に取り付けられており、間隔は一スパン毎。これにより、柵本体に対して斜めに吹き付ける風雪を、各スパン毎に堆積させる一方、忍び返し部で飛雪の巻き込みを防ぐこ

とができ、その結果、従来型防雪柵で課題とされていた柵に沿って流れた飛雪が路上に吹き込むのを防止、吹き溜まりを飛躍的に軽減させる。

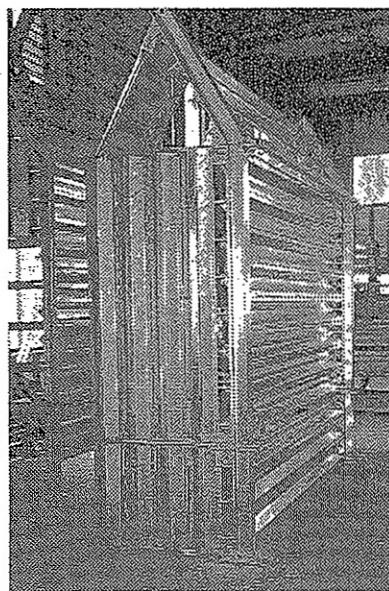
山間部を走る道路など、

## 整風板で飛雪捕捉

＝ 開発当初から大きな反響 ＝  
吹き溜まりを大幅に改善

主風向が道路に沿って流れ込むような箇所は、従来型の防雪柵では効果が低く、必要性があらながらも設置できない場合も多かった。実用新案を取得した斜風対応型防雪柵は、こうした箇所にも最適の製品で、北海道工業大学と共同研究し、風洞実験をはじめとした各種試験により効果も実証済み。無雪期には下部を折り畳んで収納することで、景観にも配慮しており、すでに国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所と酒田河川国道事務所採用されている。

理研興業は、従来型の吹止式と吹払式の利点を併せ持った『誘導板付忍び返し柵』や、カラマツ間伐材と鋼材を組み合わせた景観性能を追求した『木製高性能防雪柵』、翼型飛雪板の採用により柵高の約六倍という



飛躍的な効果領域を有する『上下分流通高性能防雪柵』など、時代のニーズや様々な現地条件に対応した製品を次々に開発。

さらに、視程計や車載型ピロオカメラ・風向風速計・温度計などをパソコンとリンクさせた装備を有する移動気象観測車を導入し、柵設置の効果の判定や、吹雪対策必要箇所の検証を行い、製品の開発・設計に役立てており、同社の柴尾社長は「どんな難しい現場にも対応できる製品を取り揃えるのが専業メーカーとしての責務。今後も当社の技術力を生かし、これからの防雪柵の一層の高性能化を図るとともに、それぞれの地域の条件にマッチした製品の開発に力を入れ、安全で快適な道づくりに貢献していきたい」と話している。

詳細問い合わせは、同社東北営業所 青森市古川二丁目十番十三号(青森古川ビル二階) 電話017-735-1188 FAX017-735-12511まで。